

福祉会 サポートーズ

(題字：そよかぜ広場 坪田雄一さん)

令和元年 8 月 17 日発行 第 3 号

■ ご挨拶



理事長 小泉 正壽

日頃より、当法人の活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。3 回目の「福祉会 サポートーズ」、活動報告となります。私たちの活動をご確認いただければ幸いです。

宮城県聴覚障害者情報センターは平成から令和を迎えた記念すべき年に 5 年目を迎えました。センターの柱となる情報の発信、相談支援、みみサポサロンなどの事業のほか、手話通訳者や要約筆記者、また盲ろう者通訳・介助員の養成研修、手話でいきいきセミナー（ろうあ者社会訓練事業）、難聴者等トータルコミュニケーション教室、盲ろう者生活訓練事業などの地域生活支援事業にも取り組んできました。平成 30 年度は手話通訳者登録試験において 6 名の合格、要約筆記者登録試験でも 6 名の合格者がありました。また、盲ろう者通訳・介助員養成講座では 14 名の盲ろう者通訳・介助員が誕生しました。これは、会員である皆様と連携・協力を図りながら事業を展開することができた成果だと思います。さらに、新たに電話リレーサービス提供事業もスタートしたところです。聴覚障害また盲ろうに関するさまざまな事業について、今後も円滑に実施していくため、さらに会員団体および各会員の皆様のご協力をお願いいたします。

令和元年度 役員体制

理事長	小泉 正壽（県聴障協）
副理事長	伊藤 史子（そよかぜ）
事務局長	宮澤 典子（宮通研）
財政部長	中島 康志（親の会）
事業部長	武田 浩一（難聴協）
広報部長	松崎 丈（文字の都仙台）
理事	平間 弘（県聴障協）
理事	浅野 順一（県聴障協）
理事	白石 智章（県聴障協）
理事	瀬谷 和彦（難聴協）
理事	及川麻衣子（宮通研）
理事	早坂 洋子（友の会）
理事	松本 隆一（センター施設長）
監事	千葉 明（県聴障協）
監事	宮東 優子（宮通研）

■ 平成 30 年度 福祉会サポートーズ 特別会員メンバー紹介

NHK 手話ニュースキャスター

木村 晴美 様

宮澤 典子 様

宮城県議会

議員 中島 源陽 様

みみ・はな・のど北仙台クリニック

院長 古川 加奈子 様

やすだ耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック

院長 安田 京 様

なとり耳鼻咽喉科・アレルギー科医院

院長 稲村 直樹 様

宮城県議会

議員 岸田 清実 様

小松亀一法律事務所

弁護士 小松 亀一 様

有限会社 めがね・補聴器のセガワ

代表取締役 瀬川 佳洋 様

草刈耳鼻科

院長 草刈 千賀志 様

宮城県医師会 ヒアリングセンター

医師 沖津 卓二 様

特定非営利活動法人

みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会 様

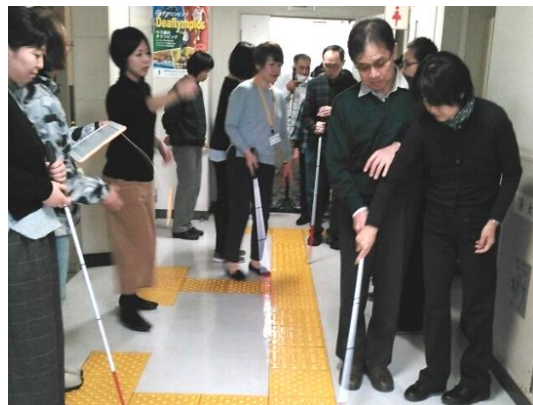
鈴木 麻千子 様



本会の主たる事業のひとつである宮城県聴覚障害者情報センター（愛称：みみサポみやぎ）が開所してから丸4年、運営は軌道に乗り、自治体や福祉関係機関から信頼される事業所として定着しつつある。平成30年度は法人設立後2回目の役員改選があり、新体制のもと、情報保障に配慮しながら理事会を4回開催した。福祉会サポーターズは賛助会員52名、特別会員13名の協力があった。また、宮城県障害者社会参加推進協議会や全国聴覚障害者情報提供施設協議会に加盟し、他団体の動向など

の情報収集に努める一方、当会の取り組みについて発信してきた。

宮城県聴覚障害者情報センターは、宮城県の受託事業として聴覚障害者情報提供施設と被災聴覚障害者情報等支援の二つの事業を担っている。事業内容は大きく分けて5つあり、①情報発信、②相談支援、③防災啓発、④意思疎通支援者の育成、⑤当事者の生涯学習・社会参加支援などである。手話動画を中心にホームページの閲覧数も増加傾向にあり、みみサポ通信や各地で開催されるみみサポサロンも好評を得ている。意思疎通支援者の養成・研修においては、昨年度同様、関係機関や各分野の専門家にご協力いただきながら、手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者通訳・介助員の養成を行った。また相談や関係団体の会議・研修会などをととしてセンターの来所者が増加した。



みやぎ通訳派遣センターの運営においては、市町村が実施している意思疎通支援事業の受託とそれ以外の機関からの依頼に対応した。宮城県および仙台市から盲ろう者通訳・介助員派遣事業を受託し、盲ろう者通訳・介助員の派遣も行っている。また、昨年度に引き続き日本財団の助成を得て宮城県手話通訳指導者育成講座を開催した。厚生労働省の電話リレーサービス事業を受託し、電話リレーサービス事業を開始した。今後もオペレータの確保や研修に努め、県内外の聴覚障害者の通信における利便性の向上に貢献したい。





1. 法人事業

- ①定時総会（第 6 回）平成 30 年 5 月 26 日（土）
- ②理事会（全 4 回）
- ③宮城県障害者社会参加推進協議会（全 2 回）
- ④全国聴覚障害者情報提供施設協議会
平成 30 年 6 月 14～15 日（福島市）
- ⑤研修等への職員派遣（のべ 6 回）

2. 手話通訳指導者育成事業（日本財団助成事業）

平成 27 年度から始まり 4 年目。手話を指導できる者および手話通訳を指導できる者の増員を目標として、前年度受講した 5 名が受講を継続し、手話通訳士 3 名を新たに受け入れた。8 回の対面学習会などの実施のほか、県内 3 会場で手話入門教室にて指導実習を行い、手話指導力の向上を図った。



3. みやぎ通訳派遣センター事業

年間の総取扱い件数は 2,291 件。今年度より盲ろう者通訳・介助員の派遣も取り扱うようになり、総取扱い件数は前年度のほぼ 2 倍となった。意思疎通支援事業では、手話通訳は 28 市町、要約筆記は 22 市町、盲ろう者通訳・介助は宮城県および仙台市と契約を交わし、主に医療のほか生活一般に関する内容で派遣している。意思疎通支援事業以外の派遣では、催し物等に派遣することが多かった。

【 みやぎ通訳派遣センター 】

	手話通訳	要約筆記	盲ろう者 通訳・介助
意思疎通支援事業以外	431	125	70
意思疎通支援事業 （市町村）	725	45	856
意思疎通支援事業 （広域：県外→宮城）	26	5	—
意思疎通支援事業 （広域：宮城→県外）	8	0	—
合 計	1,190	175	926

4. 電話リレーサービス提供事業

平成 30 年 8 月 1 日より、札幌市視聴覚障がい者情報センターならびに福島県聴覚障害者情報支援センターと分担するかたちで事業を開始した。宮城県の担当は月曜 14 時～18 時、火曜 10 時～18 時。オペレータは 5 名体制（手話通訳者 4 名、要約筆記者 1 名）。利用状況は 630 件となり、手話による利用が多かった。

【 電話リレーサービス提供事業 】

利用件数	総数 635 件 手話 475 件 文字 160 件
------	----------------------------------

5. 宮城県受託事業

①宮城県聴覚障害者情報センター運営事業

来所者は前年度より 600 名増加した。事業が増えたことで、研修室や交流スペースの利用が進んでいることが挙げられる。また、地域の小学生の「町たんけん」、中学生の「総合的な学習」の場として活用された。実習の受け入れも行った。宮城県立聴覚支援学校の高校 2 年生 1 名を「職場体験」として 3 日間受け入れた。開所以来、毎年様々な機関から実習生を受け入れているが、聴覚障害者の実習受け入れは初めてである。聴覚障害者職員の働く様子を見てもらい「働く聴覚障害者」のモデルとなれば嬉しい。事業概要の説明などのほか、ワンポイント手話などを取り入れ、興味関心を高めてもらえる内容を工夫した。備品については、ヒアリンググループやプロジェクターなど年間 47 回（前年 38 件）の備品の館外貸し出しを行った。聴覚障害関連書籍の貸出も 9 月から開始したところ、143 冊の利用があった。



相談支援は、本人からの相談によるものが 64.6%で半数を超え、メールや FAX による相談を中心に来所や訪問に対応したほか、相談支援事業所などの支援機関と密な連携を図るための情報共有も行っている。相談の内容は、医療や育児・教育など暮らしに密着したものを中心に、各種通知の読み解きや福祉制度や社会資源の紹介など“知りたい”ニーズに応える情報提供を行った。同じ聴覚障害を持つ相談員を配

置していることで、つらさや不安などを手話で語るために来所されるケースや、他機関の支援者と協働して相談者の気持ちを汲みながら支援を行うケースもある。

情報提供として、情報紙「みみサポ通信」を月 1 回発行、ホームページでは手話動画、イベント情報などを発信した。聴覚障害関連情報をトピックスで取り上げるなど、常に新しい情報を提供し、幅広く利用してもらえるホームページを目指している。また、昨年度から始めた取り組みである市町村担当者向け説明会「みみサポセミナー」では、盲ろう者関連事業をテーマに実施し、19 機関 21 名の参加があった。みやぎ盲ろう児・者友の会より当事者講師を迎え、盲ろう者についての基礎知識の講義や疑似体験を行ったほか、生活訓練事業が盲ろう者通訳・介助員の養成と派遣についての事業説明を行った。



【 宮城県聴覚障害者情報センター運営事業 】

来所者数	3,961 名（月平均 330 名）
相談件数	総数 796 件（新規 82 件） 情報共有 185 件 医療 75 件 育児・教育 61 件
ホームページ	アクセス総数 175,911 動画再生 149,570 ブログ 204,210
サロン数	5 回（センター開催分） 参加者 のべ 70 名
出前講座	9 回



センターでの「みみサポサロン」は、情報受信装置「アイ・ドラゴン 4」の説明会や、メンタルヘルスを取り上げたほか、地域の文化などに関するテーマを取り上げ、県内各地からのべ 70 名の参加があった。

出前講座は、前年度に引き続き、行政職員向けの研修に多く利用された。センターの事業概要ほか、聴覚障害の特性やコミュニケーション等を盛り込んだ内容で、宮城県リハビリテーション支援センターや宮城県障害者福祉センターなど、障害全般を扱う機関が主

催する研修等へ協力する機会も増えたほか、民間企業からの利用も増加している。

②被災聴覚障害者情報等支援事業

東日本大震災により被災した聴覚障害者の生活再建に向けた相談支援や聴覚障害者が安心して生活できる環境づくりなどを行っている。

情報提供では、センターで配信している手話動画を半期ごとにまとめた DVD を制作し貸し出しする取り組みを継続し、のべ 39 本の貸し出し利用があった。

相談支援は、訪問や同行などアウトリーチ型で対応したものが約 25.7%となり、相談者が居住地から離れることなく行われる支援を継続している。「情報提供」では、補聴器や日常生活用具、当事者団体等の社会資源の紹介が中心。必要な情報を提供することで、自ら申請を行ったり、集まりに出向いたりできるように対応した。対人関係や周囲とのコミュニケーションの問題を含めた「生活問題」は、地域包括支援センターなど本人以外の支援者からノウハウの提供や連携を求められるケースも多い。

【 被災聴覚障害者情報等支援事業 】

相談件数	総数 245 件（新規 76 件） 見守り 47 件 生活問題 34 件 情報共有 20 件
サロン数	14 市町 全 28 回 参加者 のべ 378 名
出前講座	5 回



みみサポサロンは 14 市町において全 28 回開催し、参加したのべ数は、378 名となった。サロンの実施回数や内容については、市町ごとに行政担当者と共に検討した。交流を柱として、講話や座談会を行う機会を設けた。交流を柱とし、健康や介護、防災など暮らしに関連したテーマを取り上げ、講話や座談会を行う機会を設けた。気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部が実施する「消防もしも研修会」も、年 1 回開催のペースで継続されている。

つながりの構築では 5 回の出前講座と 1 回のパネル展示を実施した。市民・町民向けの講座のほか民生委員児童委員などの研修で活用していただくことができた。その地域に暮らす聴覚障害者に震災時の体験を語ってもらいグループワークを行う「当事者から学ぶ+できることを考える」スタイルの出前講座を、今年度も 2 回開催している。宮城県視覚障害者情報センターとの合同による出前講座も 1 回実施した。それぞれの障害について一度に学べると好評である。

災害時における聴覚障害者支援に関する取り組みは、東日本大震災で得られた教訓などをもとに「有事のあるべき姿」「平時のあるべき姿」を想定し、どのような取り組みにつなげるべきかを検討するための作業を進めている。当事者団体等から十分に意見を伺う体制を作り、よりよい支援手法の検討や、災害時における聴覚障害者情報提供施設の役割を整理しながら「宮城方式」の検討を行いたい。



③手話通訳者養成研修等事業

ア 手話通訳者養成研修事業

	内容	受講者数	備考
養成事業	手話通訳者養成講座（基本応用）全 53 講座	7	実践進級者 7 名
	（実践）全 27 講座	12	修了証交付者 10 名
	登録試験直前対策講座 全 2 回（6 時間）	22	
	登録試験（全国統一試験を導入）	21	合格者 6 名
	合格証書授与式・合格者オリエンテーション	6	要約筆記者と合同
	登録試験不合格者のためのふりかえり講座	8	
	手話通訳者 I 指導者養成研修（全 8 回）	2	山梨県
研修事業	登録証交付式・新登録者オリエンテーション	2	要約筆記者と合同
	現任研修 全 4 回（8 時間）	のべ 99	
	手話通訳士試験対策講座 全 3 回（9 時間）	4	

イ ろうあ者社会生活訓練事業

	日程	会場	内容（講師）	参加者数
1	9/5（土）	柴田町	見てわかる～薬の正しい使い方～ （株式会社オオノ 薬剤師）	11
2	11/17（土）	大崎市	見てわかる～年金のしくみの話～ （日本年金機構古川年金事務所）	14
3	2/4（土）	みみサポ	見てわかる～終活（相続）の話～ （宮城県司法書士会）	22

ウ 字幕入り映像ライブラリー貸し出し事業

	内容	備考
登録者数	身体障害者手帳保持者 68 名	新規登録 1 名含む 新規登録 11 名含む
	健聴者 50 名	
	団体等 6 団体	
貸出数	DVD 341	
	VHS 85	
	館内閲覧（DVD） 151	
	館内閲覧（VHS） 7	



工 難聴者のトータルコミュニケーション教室開催事業 ※生活支援講座はろうあ者社会生活教室と合同開催

	日程	会場	内容	参加者数
1	7/28（土）	石巻市	言語聴覚士による講話 手話講座 交流	7
2	10/6（土）	塩竈市		10
3	12/8（土）	柴田町		13

オ 手話通訳者派遣ネットワーク事業 ※件数は派遣センター事業参照

手話通訳等を必要とする聴覚障害者が都道府県間を移動する場合に、目的地において必要となる手話通訳者等を確保するためのネットワークの整備および維持を行った。

④要約筆記養成研修事業

	内容	受講者数	備考
養成事業	要約筆記養成講座（後期）全 18 講座 登録試験直前対策講座 全 3 回 登録試験（全国統一認定試験を導入） 合格証書授与式・合格者オリエンテーション 指導者養成研修（基礎研修）全 3 クール （難聴者） 全 2 クール	手書き 7／PC7 手書き 6／PC6 手書き 7／PC7 手書き 1／PC3 基礎研修 1 難聴者 1	修了者 手書き 6／PC3 合格者 手書き 3／PC3 手話通訳者と合同 東京都
研修事業	登録証交付式・新登録者オリエンテーション 現任研修 全 4 回（8 時間）	手書き 1／PC 1 のべ 34	手話通訳者と合同 奉仕員も含む

⑤盲ろう者向け生活訓練事業

	日程	会場	内容（講師）	参加者数
1	10/21(日)	仙台市	盲ろう者の活動体験学習（東京盲ろう者友の会）	8
2	11/19（月）	みみサポ	白杖と安全歩行（NPO 法人 アイサポート仙台）	7

⑥盲ろう者通訳・介助員養成事業

	内容	受講者数	備考
養成事業	盲ろう者通訳・介助員養成講座 全 21 講座 登録証授与式	16 14	修了者 14 名
研修事業	現任研修 全 4 回（8 時間）	のべ 58	

⑦盲ろう通訳派遣事業（宮城県および仙台市よりそれぞれ受託）

	宮城県	仙台市
利用登録数	6 名	10 名
派遣件数	298 件	558 件
派遣時間	1,101 時間	2,164 時間



■平成 31（令和元）年度定時総会を開催しました

6 月 22 日（土）13 時 00 分より、宮城県聴覚障害者情報センター（みみサポみやぎ）の研修室において、平成 31 年度（第 7 回）定時総会を開催しました。構成団体（正会員）のうち 5 団体にご出席をいただき、30 年度の事業報告や会計決算報告、31 年度の事業計画や会計予算案の 4 つの議事がすべて満場一致で承認されました。また、追加となった第 5 号議案として、県聴障協からの推薦理事である安田恵さんに代わり、白石智章さんが推薦され、承認されました。

■福祉会の取り組みをホームページでごらんください

福祉会の様々な取り組みは、下記のホームページでご覧いただけます。ぜひご意見やご感想などお寄せください。

宮城県聴覚障害者福祉会（団体名で検索できます！）

みやぎ通訳派遣センターのページもあります（様式のダウンロードもご利用ください）

宮城県聴覚障害者情報センター 「みみサポみやぎ」で検索してください！

みみサポブログは毎日更新！ 手話動画は毎週月曜日に更新しています

手話通訳や要約筆記付きのイベント情報のページが人気です

■福祉会サポーターズ ご継続のお願い

宮城県内のすべての聴覚障害者の暮らしをよりよいものにするため、すべての聴覚障害者がいきいきと暮らせる社会をめざして、きこえやことばのバリアをなくすための事業に取り組みます。

平成 30 年度は 57 名のサポーターズの皆さんに支えていただきました。引き続きご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



個人会員

一口 1,000 円（何口でも可）

特別会員

一口 10,000 円

特典内容	個人会員	特別会員
1) 情報紙「福祉会サポーターズ」（A3 両面／年 1 回発行）	○	○
2) 年次報告書の送付（総会資料をまとめた冊子状のもの）	—	○
3) 総会資料および年次報告書への会員名掲載	—	○
4) 公式ウェブサイトへの会員名掲載	—	○
5) 「宮城県聴覚障害者福祉会を支援しています」という文言を対外的に利用可能	—	○

一般社団法人宮城県聴覚障害者福祉会 事務局

980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3 丁目 1-6 宮城県聴覚障害者情報センター内

電話 022-393-5501 FAX 022-393-5502

Mail secretariat@mivacho-fukushi.jp